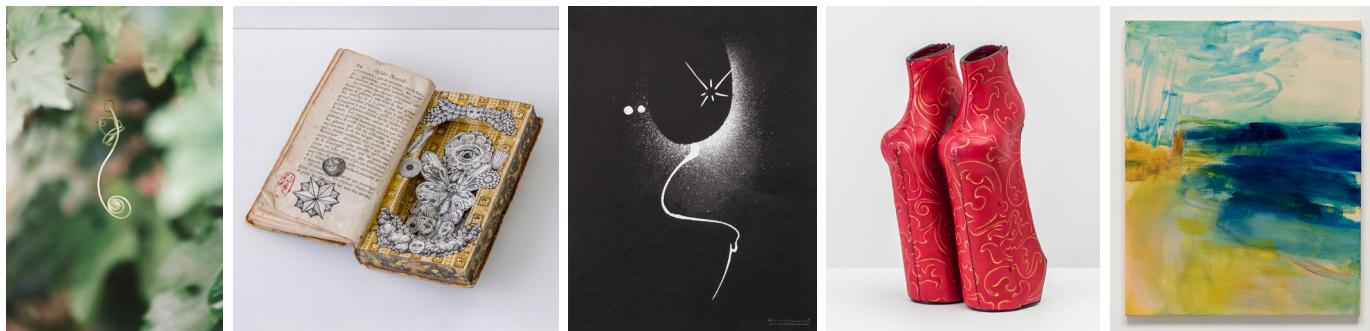


24 名のアーティストによるチャリティオークション  
「Blooming towards the sky」展  
能登半島地震への復興支援を目的に、11 月 7 日(金)から開催



ポーラ ミュージアム アネックス(東京・中央区銀座)では、チャリティオークション「Blooming towards the sky」展を 2025 年 11 月 7 日(金)から 11 月 30 日(日)まで開催します。

本チャリティオークションは、2020 年のコロナ渦中、医療従事者の方々に対して私たちが「今できること」と考え、スタートしました。以降、テーマと支援先を、各年の社会情勢や心境を反映する形で開催し、今年で 6 回目を迎えます。毎年楽しみにして下さるお客さまとの輪も広がり、総額 88,356,415 円を NGO 等の団体や災害義援金へ寄付することができました。

昨年は「ふるさと、故郷、HOME」をテーマに掲げ、能登半島地震で被災された地域への支援を行いました。地震から 1 年以上が経過した今も能登の復興には多くの課題が残されており、継続的な支援の必要性を感じています。私たちは、この困難な状況から再生し、未来へと向かう能登の姿を今年のテーマ「新芽、芽吹く」に込め、「Blooming towards the sky」展と題し、企画展を開催することとしました。

本展では、賛同いただいた 24 名のアーティストが各 1 点、テーマをもとにオリジナル作品を制作します。作品は、展示会場でご覧いただけるとともに、サイレントオークション形式※でオンラインにてご入札いただけます。またドローイング作品の抽選販売も行います。オークション作品およびドローイングの販売収益全額は、日本赤十字社を通じ「令和6年能登半島地震災害義援金」へ寄付予定です。(入札及び抽選販売サイトは 11 月 10 日にオープン予定)

アーティストたちが表現する多様な「新芽、芽吹く」は、私たちの心に希望を届け、未来への明るい展望を抱かせてくれるでしょう。ぜひこの機会に足をお運びください。

※サイレントオークションとは、競りは行わず入札のみ行い、期間中に最高額をつけた方が落札者となる形式です。

**出展作家** (五十音順)

イイノナホ、今井昌代、入江早耶、岩田俊彦、柏原由佳、鬼頭健吾、スクリプカリウ落合安奈、鈴木ヒラク、竹村京、館鼻則孝、津上みゆき、中村弘峰、中村萌、流麻二果、西島雄志、野口哲哉、ヒグチユウコ、福井利佐、増田セバスチャン、水野里奈、ミヤケマイ、横溝美由紀、Ryu Itadani、渡辺おさむ

**展覧会概要**

展覧会名 チャリティオークション「Blooming towards the sky」展  
会 期 2025 年 11 月 7 日(金)- 11 月 30 日(日)[24 日間] ※会期中無休  
時間・料金 11:00 - 19:00 (入場は 18:30 まで)、入場無料  
会 場 ポーラ ミュージアム アネックス(〒104-0061 中央区銀座 1-7-7 ポーラ銀座ビル 3 階)  
主 催 株式会社ポーラ・オルビスホールディングス  
オークション入札およびドローイング抽選サイトの公開期間: 11 月 10 日(月)11:00~11 月 30 日(日)23:59 まで  
※状況により変更になる場合がございます。ギャラリーHP (<https://www.po-holdings.co.jp/m-annex/>) で最新情報をご確認の上、ご来館いただきますようお願い申し上げます。

冒頭作品(左より): スクリプカリウ落合安奈「Microcosmos」2025年 発色現像方式印刷 / ヒグチユウコ「Place in my heart」2024年 アンティーク本(1770s 推定)、和紙、ペン、鉛筆、水彩

鈴木ヒラク「Untitled (Silver on Black) #65」2025年 シルバーインク、紙/館鼻則孝「ベビーヒールレスシューズ」2024年 牛革、染料、金属ファスナー/津上みゆき「View, A Place, 10:35am 20 Dec 2024, 2025」2025年 顔料・アクリル・その他、キャンバス  
※掲載作品は一部を除き、過去の参考作品です。本展では各作家の新作を展示予定です。

【報道関係者の皆さまからのお問い合わせ先】(株)ポーラ・オルビスホールディングス 広報室  
広報担当 Tel 03-3563-5540 / Mail [webmaster@po-holdings.co.jp](mailto:webmaster@po-holdings.co.jp)  
【お客様お問い合わせ先】ポーラ ミュージアム アネックス Tel 050-5541-8600 (ハローダイヤル)

## 作家プロフィール (五十音順)

※掲載作品は一部を除き、過去の参考作品です。本展では各作家の新作を展示予定です。

### イノナホ Naho Iino

1967年、北海道洞爺湖温泉町に生まれ、東京・四谷で育つ。

武蔵野美術大学彫刻学科を卒業後、シアトルのビルチャック・グラス・スクールで学ぶ。

ガラスの中に広がる世界を探索しながら制作を続け、独創的なオブジェを中心に、ランプやシャンデリアなど光を用いた造形作品も手がけている。

国内外の住宅や店舗、美術館向けにアートワークやシャンデリアの制作を行う。

作品はすべて自身の手による吹きガラス、または鋳造によって生み出され、ガラスの繊細さと手仕事ならではの温かみを備えている。

<https://www.naho-glass.com/>



「芽吹き walnut」2025

ガラス

### 今井昌代 Masayo Imai

テディベア・ぬいぐるみ作家。

1999年より制作を始め、球体関節のあるテディベアや布形状フェルトを使ったぬいぐるみを発表。

絵本『ギュスターヴくん』白泉社 にぬいぐるみ制作で参加。著書に『カカオカー・レーシング』グラフィック社、『Teddy Bear Works Imai Masayo』ボリス文庫。

<https://www.instagram.com/uritouran>



「Have an Ice Day!」2024

モヘア、ハードボードジョイント、化繊綿、ベレット、フェルト、他

### 入江早那 Saya Irie

1983年、岡山県生まれ。

2009年、広島市立大学大学院芸術学研究科博士前期課程修了。在学中の2008年、ベルリン・ヴァイセンゼー美術大学へ交換留学。海外での活動も多数。2016年、韓国でのAIRトタトガ、2023年、アメリカでのInternational Studio & Curatorial Program、2024年、インドネシアでのASPレジデンスプログラムに参加。2019年には公益財団法人ポーラ美術振興財団の在外研修員としてニューヨークに滞在。これまでの海外経験を通じ、表現の幅を拡大中。

<https://www.sayairie.com>



「インディアンバードダスト」2024

図鑑、消しゴムのカス、樹脂粘土、短編物語

### 岩田俊彦 Toshihiko Iwata

1970年神奈川県生まれ。1999年東京芸術大学美術学部工芸科漆芸専攻卒業。漆芸の伝統的な技巧を用いつつ、現代の感性に溶け込む作品を既成概念にとらわれない表現で制作。幾何学的な線や模様、動植物や家紋などのモチーフを描いたフラットパネルシリーズ、漆という素材と対話をしながら完成へと導かれるダイアログシリーズなどの作品を手掛けている。2023年から2024年にはフォーシーズンズホテル大阪における大型平面作品を制作。主な展覧会に「うつろいの間\_時によせて」(2025年、mouseion)、「漆膚」(2025年、amanai)、「蝕・Erosion」(2024年、Whims乗興院/台北)、「Authentic Aesthetic」(2020年、伊勢半本店紅ミュージアム)、「THIS IS NOW」(2020年、ANAインターコンチネンタルホテル東京) などがある。

[https://www.instagram.com/iwata\\_toshihiko](https://www.instagram.com/iwata_toshihiko)



ダイアログシリーズ「アンタイトル」2024

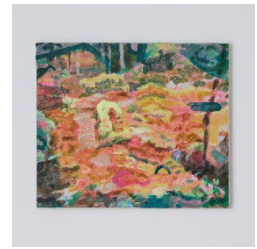
漆、木製パネル

### 柏原由佳 Yuka Kashihara

1980年広島県生まれ。武蔵野美術大学で日本画を学んだ後、2006年渡独。

2013年ライプツィヒ視覚芸術アカデミー修士課程卒業、2015年同アカデミーマイスターシュールー号取得。2022年日本帰国、東京にて制作。日本画のように薄く溶いた油絵の具と、テンペラ絵具、アクリル絵具を用いた深い色彩により、透明性と濃密さが共存した生命力溢れる作品世界をつくりあげている。2012年に VOCA 展に出展、佳作賞と大原美術館賞を受賞。主な個展に「最初の島 再後の山」（2016年、大原美術館）、「Polar Green」（2019年、小山登美夫ギャラリー）、「1:1」（2021年、ポーラ ミュージアム アネックス）「Yuka Kashihara」（2022年、アクアベラギャラリー、アメリカ、パームビーチ）、「Pile of Signs - しるし、徴」（2024年、小山登美夫ギャラリー 前橋）など。

<https://tomiokoyamagallery.com/artists/yuka-kashihara/>



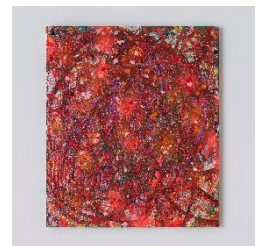
「みどりの庭」2024

油彩、アクリル、キャンバス

### 鬼頭健吾 Kengo Kito

1977年愛知県生まれ。京都芸術大学大学院教授。2001年名古屋芸術大学絵画科洋画コース卒業後、2003年京都市立芸術大学大学院美術研究科油画修了。主なグループ展に「六本木クロッシング 2007：未来への脈動」（2007年、森美術館）、「アーティスト・ファイル」（2011年、国立新美術館）、「Mono No Aware」（2013年、エルミタージュ美術館）、「ギホウのヒミツ」（2019年、高松市美術館）、「色と感情」（2022年、ポーラ ミュージアム アネックス）など。主な個展に「Multiple Star I, II, III」（2017年、原美術館ARC）、「Full Lightness」（2020年、京都市京セラ美術館）、「Reconnecting」（2021年、Japan House LA）、「Unity on the Hudson」（2023年、Hudson River Museum, NY）など。2008年に五島記念文化賞を受賞。ニューヨークに1年滞在し、その後ドイツ・ベルリンにて制作活動。フラフープやパラソルなど、工業製品を空間に充満させることにより作品化したり、近年は布や鏡などを建物の構造や自然および人工の光といった環境に接続、干渉する作品を発表している。ありふれた日常のもので現代社会を軽やかに批評する作家として国内外から高い評価を受ける。

<https://mtkcontemporaryart.com/artist/kito-kengo/>



「cartwheel galaxy」2023-2024

acrylic, glitter, glass, spray on canvas

### スクリプカリウ落合安奈 Ana Scripcariu-Ochiai

1992年埼玉県生まれ。東京藝術大学油画専攻を首席、美術学部総代で卒業。同大学大学院彫刻専攻博士課程修了。日本とルーマニアの2つの母国に根を下ろす方法の模索をきっかけに、「土地と人の結びつき」というテーマを持つ。国内外各地で土着の祭や民間信仰などの文化人類学的なフィールドワークを重ね、近年はその延長線として霊長類学の分野にも取り組みながら、インスタレーション、写真、映像、絵画などマルチメディアな作品を制作。「時間や距離、土地や民族を越えて物事が触れ合い、地続きになる瞬間」を紡ぐ。東京都写真美術館（2025）、埼玉県立近代美術館（2023、2020-2021）、ルーマニア国立現代美術館（2020）、東京都美術館（2019）、世界遺産のフランスのシャンボール城（2018）やベトナムのホイアン（2019）など世界各地で作品を発表。令和4年度公益財団法人ポーラ美術振興財団在外研修員としてルーマニアで活動。

<https://www.ana-s-ochiai.com/>



「Microcosmos」2025

発色現像方式印刷

### 鈴木ヒラク Hiraku Suzuki

1978年生まれ。2008年東京藝術大学大学院修了。絵と言語の間を主題に、平面・彫刻・映像・インスタレーション・パフォーマンス等により、ドローイングの概念を拡張する制作活動を展開している。主な個展に『海と記号』ポーラ ミュージアム アネックス（東京、2025年）、『今日の発掘』群馬県立近代美術館（群馬、2023年）がある他、これまでに金沢21世紀美術館（石川、2009、2012、2018、2025年）、森美術館（東京、2010年）、銀川現代美術館（中国、2016年）、MOCO Panacée（フランス、2019年）、東京都現代美術館（東京、2019、2022、2025年）など国内外の美術館で多数の展覧会に参加。音楽家や詩人らとのコラボレーションやパブリックアートも多数手がける。著書に『ドローイング 点・線・面からチューブへ』（左右社、2023年）などがある。

<http://hirakusuzuki.com/>



「Untitled (Silver on Black) #65」2025

シルバーインク、紙

### 竹村京 Kei Takemura

1975年東京生まれ、東京藝術大学美術学部絵画科油画専攻卒業。同大学大学院美術研究科修了後、ドイツ・ベルリンでの留学を経て滞在。現在は高崎で制作活動を行なっている。竹村は主に写真やドローイングの上に絹糸の刺繍を施した布を重ねたインスタレーションを発表している。この刺繍による行為は、竹村が「仮に・・・」という状態を生み出すことの試みであり、竹村がかつて家族で暮らした家、親しい間柄にある人につながる記憶や時間、失われたものを具体的な存在として再構築する作業でもある。また壊れた食器や日用品を用いた「修復シリーズ」の制作でも知られている。主な展覧会に「セカイノコトワリ」（2025年予定、京都近代美術館）、「Before/After」（2023年、広島市現代美術館）、「ホームスイートホーム」（2023年、国立国際美術館）、「ヨコハマトリエンナーレ2020」（2020年、横浜美術館）がある。

<https://www.takaishiigallery.com/jp/archives/4171/>



「修復された八角形の花の付いたコーヒーカップ」  
2024

2客の八角形のコーヒーカップ、盤糸、絹オーガンジー

### 館鼻則孝 Noritaka Tatehana

1985年東京都生まれ。東京藝術大学で染織を専攻。レディー・ガガの履くヒールレスシューズの作者として知られる。過去の日本文化を見直し、現代的に再定義することで制作される作品は、独自の視点と世界観を持つ。近年は絵画も制作し、伝統工芸士との創作活動にも精力的に取り組む。メトロポリタン美術館（ニューヨーク・アメリカ）や、ヴィクトリア&アルバート博物館（ロンドン・イギリス）に作品が永久収蔵されている。

<https://www.noritakatatchana.com>



「ペビーヒールレスシューズ」2024

牛革、染料、金属ファスナー

### 津上みゆき Miyuki Tsugami

1973年東京に生まれ大阪に育つ。京都芸術大学大学院修了。作品タイトルに冠している“View”は「みえるもの」「眺め」と「みること」「見方」の両義を示す。人がどのように外の世界を自分の世界として捉え、自身の視点から尺度や価値観を構築していくのか、観察し描く日々のスケッチを通して現代における風景画の制作に取り組んでいる事に由来する。主な個展：2005年大原美術館（岡山）、2013年一宮市三岸節子記念美術館（愛知）、2015年ドミニカナークロスター・プレントラウ（ドイツ）、2018年上野の森美術館ギャラリー（東京）、2019年長崎県美術館。このほか台北市立美術館（台湾）、アーティゾン美術館（東京）でのグループ展に参加。主なコレクション：アーティゾン美術館、大原美術館、国立国際美術館（大阪）、東京国立近代美術館、長崎県美術館。

<https://miyukitsugami.jp/>



「View, A Place, 10:35am 20 Dec 2024, 2025」2025

顔料・アクリル・その他、キャンバス

### 中村弘峰 Hiromine Nakamura

1986年福岡県生まれ。100年以上続く人形師の家系の四代目として生まれ、東京藝術大学大学院を修了後、家業を引き継ぎながら新たな作品を発表している。従来の概念に囚われずに制作される作品は、緻密かつ斬新で、見るものの目を奪う。2023年に福岡県文化賞受賞（奨励部門）、第70回日本伝統工芸展にて朝日新聞社賞受賞、2024年にはスイスのミケランジェロ財団がヴェネツィアで主催する国際的な工芸の祭典「HOMO FABER」に選出、2025年福岡市文化賞受賞など国内外で活動の幅を広げている。

<https://www.nakamura-ningyo.com/>



「エア不老 アリウープ -ホームランドモデル- ,  
ジャーニーサイズ」2024

陶土、顔料、金箔、アクリルミラー

### **中村 萌 Moe Nakamura**

1988年東京生まれ。2012年に女子美術大学大学院美術研究科を修了。楠に油絵具で彩色した作品を特徴としており、木という素材の中から、自身が求める形を探り当てるように彫り出していく。また、絵画と彫刻を横断的に取り組みながら、最近では、楠の板を使った平面作品へも精力的に取り組んでいる。国内外で継続して多くの作品を発表し、活躍の幅を広げている。近年の主な個展に「connect connect」（2025年、ポーラミュージアム アネックス）、「whisper whisper」（2025年、ギャラリー椿）、「Like a Garden, Like a Home」（2023年、ギャラリー椿）、「Like a Garden」（2023年、銀座 蔦屋書店）、「before the dawn」（2022年、銀座 蔦屋書店）、「our whereabouts - 私たちの行方 -」（2021年、ポーラミュージアム アネックス）、「inside us」（2021年、ギャラリー椿）、「GROWTH」（2020年、華山1914文創産業園區）など。

<https://www.moe-nakamura.com/>



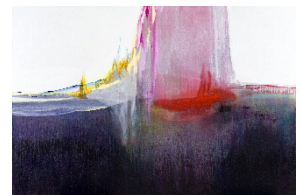
「Waiting Point」2024

楠に油彩

### **流麻二果 Manika Nagare**

1975年、大阪生まれ、香川育ち。日本の色彩文化のルーツを多角的に捉えながら、独自の色彩感覚で油彩表現の幅を拡張し続け、建築空間の色彩監修をはじめさまざまなジャンルとのコラボレーションやダンスパフォーマンスなど国内外で幅広く活動している。女子美術大学芸術学部絵画科洋画専攻卒。2002年文化庁新進芸術家在外研修員（アメリカ）、2004年ポーラ美術振興財団在外研修員（アメリカ・トルコ）。主な展覧会に「VOCA展」上野の森美術館（2000年・2006年）、「絵画を抱きしめて」資生堂ギャラリー（2015年）、「高松コンテンポラリーアート・アニュアルvol.05『見えてる風景／見えない風景』」高松市美術館（2016年）、「その光に色を見るSpectrum of Vivid Moments」ポーラ ミュージアム アネックス、高梁市成羽美術館（2022年）、「カラーズ ― 色の秘密にせまる ― 印象派から現代アートへ」ポーラ美術館（2024年）など。パブリックコレクションに高松市美術館、練馬区立美術館、Jordan Schnitzer Museum of Art（アメリカ）、University of Michigan Museum of Art（アメリカ）、Kocaeli University Museum（トルコ）など。

<https://manikanagare.com/>



「雪に白を着る」2024

キャンバスに油彩

### **西島雄志 Yuji Nishijima**

1969年神奈川県生まれ。1995年に東京芸術大学大学院美術研究科彫刻専攻を修了。神話に縁の深い動物を題材に、渦状に巻いた銅線のパーツを繋げ、彫刻やインスタレーションを発表している。2021年に拠点を群馬に移し、 gallery newroll を主宰。2024年にはArt Fair NAKANOJOを企画開催。主な展覧会に「瑞祥 Zui-shou - 時の連なり-」（2023年、ポーラ ミュージアム アネックス）、主なグループ展に「中之条ビエンナーレ」（2011～2025年、群馬）、都美セレクション展（2021年、東京都美術館）、プレBIWAKOビエンナーレ（2022年、二条城、京都）、富士の山ビエンナーレ（2024年、静岡）、瀬戸内国際芸術祭（2025年、香川）、BIWAKOビエンナーレ（2022～2025年、滋賀）などがある。

<http://yuji-nishijima.com/>



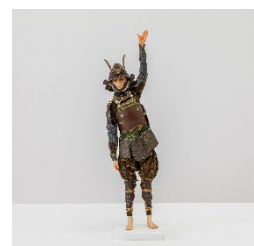
「そこにある気配」2024

銅線、古い椅子

### **野口哲哉 Tetsuya Noguchi**

1980年香川県生まれ。2005年に広島市立大学大学院を修了。鎧と人間をテーマに、時代や文化が交錯する世界観を構築する美術家。精巧に制作された人びとの姿は、ユーモアを感じさせながらも詩情を湛える。現在、箱根彫刻の森美術館「鎧を着て見る夢 -ARMOURED DREAMER-」が開催中。過去に「シン・ジャパニーズ・ペインティング」（2023年、ポーラ美術館）、巡回展「THIS IS NOT A SAMURAI」（2021-2022年）、「野口哲哉展」（2014年、練馬区立美術館、アサヒビール大山崎山荘美術館）、「医学と芸術：生命（いのち）と愛の未来を探る」（2009年、森美術館）等。

<https://gyokuei.tokyo/photo/album/414837>



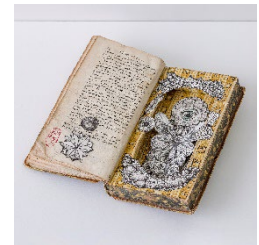
「Hi!」2024

樹脂・繊維・合成塗料

## ヒグチユウコ Yuko Higuchi

画家

<https://higuchiyuko.com/>



「Place in my heart」 2024

アンティーク本（1770s 推定）、和紙、ペン、鉛筆、水彩

## 福井利佐 Risa Fukui

1975年静岡県出身。多摩美術大学グラフィックデザイン専攻卒業。精緻な観察による描写のきめ細やかさと大胆な構図で、観る者を圧倒させるような生命力のある線の世界を描き出す切り絵アーティスト。中島美嘉のCDジャケットアートワーク、Reebokとのコラボレーションスニーカーやユニクロ「UT」への参加、直木賞作家の桐野夏生氏、木内昇氏の小説への挿画や装丁、NHK太宰治短編小説集「グッド・バイ」の映像制作、NHK「猫のしっぽカエルの手」オープニングタイトル制作などがある。お能の宝生流家元主催の「和の会」メインビジュアル担当（2008-2018）。福音館書店かがくのともから絵本2019年7月号「むしたちのおとのせかい」、2022年11月号「からまつ 一ふじさんにもりをつくるきー」、2025年8月号「みずたまりといきもの」を刊行。現在巡回展「サンリオ展〜ニッポンのカワイイ文化60年史〜」に参加。巡回展「日本の切り絵7人のミューズ展」参加。2024年小学校の図工の教科書 ずがこうさく1.2下「みつけたよ」（開隆堂出版）登場。その他、国内外の個展や合同展の参加、ワークショップなど多方面で活躍中。

<http://risafukui.jp/>



「花ぞ昔の香に匂ひける」 2024

アクリル、紙

## 増田セバスチャン Sebastian Masuda

1970年生まれ。ニューヨーク在住。1990年代前半より演劇や現代美術に関わり、1995年に表現の場としてのショップ「6%DOKIDOKI」をオープン。一貫した独特な色彩感覚からアート、ファッション、エンターテインメントの垣根を越えて作品を制作。きやりーぱみゅぱみゅ

「PONPONPON」MV美術、KAWAII MONSTER CAFEプロデュースなど世界にKawaii文化が知られるきっかけを作った。世の中に存在する全ての事象をマテリアルとして創造しつづける。2017年度文化庁文化交流使、2018年度ニューヨーク大学客員研究員、2019年NewsweekJapan 世界が尊敬する日本人100人。

<https://sebastianmasuda.com/>



「TRUE COLORS -home-」 2013/2024

和紙、シーグラス、ガラスビーズ、ガーゼ、コットン生地

## 水野里奈 Rina Mizuno

1989年愛知県生まれ。作者本人でさえ驚くような作品であれば観覧者からはもっと大きな驚き以上の何かが生まれるのではないかと期待し、「見ても見きる事の出来ない」絵画を目指している。主な個展に「アトリエの景色」（2023年、新宿高島屋）、「Garden」（2023年、六本木ヒルズ A/Dギャラリー）、「みてもみきれない。」（2020年、ミヅマアートギャラリー）、「思わず、たち止まざるをえない。」（2019年、ポーラ ミュージアム アネックス）等、主なグループ展に「異文化は共鳴するの か？ 大原コレクションでひらく近代への扉」（2024年、大原美術館）、「現代美術のポジション 2021-2022」（2021-2022年、名古屋市美術館）など。愛知県芸術文化選奨・新人賞（2022）、VOCA奨励賞（2015）などを受賞。パブリックコレクションに大原美術館、愛知県美術館、パブリックアートに三菱地所、第一生命保険株式会社などがある。

<https://www.rinamizuno.com/>



「こんな柄の食器があつたらいい」 2024

キャンバスにアクリル、糸、ビーズ

### ミヤケマイ Mai Miyake

2008年にパリ国立高等美術大学大学院に留学。日本古来より現代に続く独自の感性を織り込んだ作品を制作。作品は絵画のみならず、インスタレーション、半立体、プロダクト、小説まで表現領域は多岐にわたる。主な展覧会に「白粉花 Little Lily・WhiteLie」（2013年、ポーラ ミュージアム アネックス）、「天は自らを助くるものを助ける」（2013年、ポーラ美術館）、「変容する家」（2018年、金沢21世紀美術館）、「BOTANICA」（2018年、釜山市立美術館）、「アート&デザインの大茶会」（2018年、OPAM）、さいたま国際芸術祭2020 「蝴蝶之夢」（2020年）、「ことばのかたちかたちのことば」（2021年、神奈川県民ホールギャラリー）、「とある美術館の夏休み」（2022年、千葉市美術館）、「クロヤギ シロヤギ通信展」（2023年、MtK Contemporary Art）、「Made in Shiga」（2024年、OMOTESANDO CROSSING PARK）など。最新の作品集は「反射 yin-yang」（2022年）。ARTISTS' FAIR KYOTO コミッショナー。EXPO2025 大阪・関西万博会場（静けさの森ゾーン 東側休憩所）にて作品展示。

<http://www.maimiyake.com/>

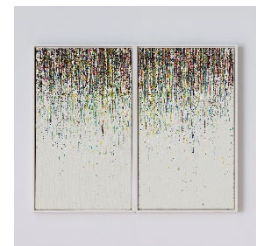


「あなたのいるところ」2024  
和紙、布、漆、木、箔

### 横溝美由紀 Miyuki Yokomizo

1968年東京都生まれ。多摩美術大学彫刻科卒業。文化庁派遣芸術家在外研修員。1990年代からプラスチックなど身近な素材を使い、光に満ちたミニマルなインスタレーションを国内外で発表する。近年はインスタレーションを平面に置き換えた作品とインスタレーションを組み合わせた新たな風景の創出を試みている。主な展示に「プラスチックの時代」（2000年、埼玉県立近代美術館）、「傾く小屋」（2002年、東京都現代美術館）、「盗まれた自然」（2003年、川村記念美術館）、「未来への回路ー日本の新世代アーティスト」（2004-19年、国際交流基金）、「Landscape - やわらかな地平のその先に」（2021年、ポーラ ミュージアム アネックス）、「ABSTRACTION 抽象絵画の覚醒と展開 セザンヌ、フォーヴィスム、キュビズムから現代へ」（2023年、アーティゾン美術館）などがある。

<http://miyukiyokomizo.net/>



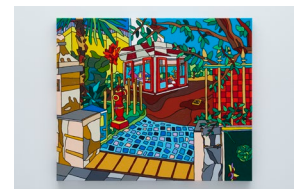
「waterscape 001 (diptych)」2024  
油彩、キャンバス、フレーム

### Ryu Itadani

1974年大阪生まれ

大阪からトロント、東京、ロンドンの生活を経て、現在はベルリン在住。住んでいる街や旅先の風景、部屋にあるモノや花。何気ない毎日で見つけた喜び、美しさを自由な線にとらえて、色彩豊かに描く。

<https://ryuitadani.com/>



「Saint-Jen-de-Luz」2024  
Acrylic on Canvas

### 渡辺おさむ Osamu Watanabe

1980年生まれ。工芸菓子の技法をアートに取り入れ、樹脂を用いて様々なものにお菓子のデコレーションをする現代美術作家。本物そっくりのカラフルで精巧なクリームやキャンディ、フルーツなどをういた作品は、国内外で注目を集め話題を呼ぶ。主な展覧会に「渡辺おさむOHARA-DECO」（2012年、大原美術館）。パブリックコレクションに、大原美術館、清須市はるひ美術館、高崎市美術館など。

<http://watanabeosamu.tokyo/>



「Home, Sweet Home」2024  
FRP、モデリングペースト、樹脂、アクリル絵具